

広報誌で地域の頑張る人を応援したい

金谷で社会保険労務士法人の代表を務める奥村さん。自治会役員などを務めた後、金谷コミュニティ委員会の広報部長として、広報誌「ほほえみ」の発行に携わってきました。

【コミュニティの立ち上げ】

島田市と金谷町の合併後、自治会活動に熱心に取り組んでいた奥村さん。当時、金谷地区の住民は「合併すること無くなくなるものが多い」と不安を募らせていたと言います。その時に注目したのが「コミュニティ委員会」でした。

「当時、すでにコミュニティ活動の長い歴史を持っていた、六合や初倉の存在に初めて気づいたのです。合併後も金谷のまとまりを大切にしていくなは、自治会の枠を越えて地域づくりに取り組む組織が必要ではないかと、当時の自治会長会で検討が始まり、設立準備会での話し合いを経て、2年の歳月をかけて

金谷コミュニティ委員会が設立されました」

「ほほえみのはじまり」
設立したばかりで知名度の無かったコミュニティについて伝えるため、奥村さんたち



金谷コミュニティ委員会広報部長
奥村逸子さん（金谷本町）

は、広報誌を作り始めました。「創刊号は『金谷地区ニュース』として平成19年に発行しました。平成20年には、公募で決定した愛称『ほほえみ』に改称し、現在に至っています。初めの1、2年は知名度

も低く、取材に行っても怪訝な顔をされたりしたものです。が、年を重ねるごとに『いつも読んでるよ』という励ましの声をたくさんもらえるようになりまし。これは、広報部の頑張りや誌面の工夫もあり

ますが、地域の皆さんが情報提供してくれたり、投稿してくれたりしたおかげです。ほほえみは、広報部だけでなく、地域のみんで作り上げてきた広報誌だという実感がありますね」

【広報で金谷を元気に】
奥村さんは、地域で頑張っている人たちを取り上げることが、自分たちのやりがいだと語ります。

「頑張つて輝いている人からは、元気をもらえます。そして、私たちができることは、地域にその頑張りを知らせること。ほほえみの重要な役割が、そこにあると思うんです」
創刊から10年以上にわたり広報誌を作ってきた奥村さんは、担い手や、今後のあり方にも目を向けています。

「広報部員は全員、仕事を持っていきますので、一緒に活動をしてくれる人がもう少し増えたらいいなと思っています。広報は、地域の魅力の再発見や、人との出会いなどの面白さがありますし、得るものが多い活動です。『金谷を感じられる広報誌』をこれからも目指していきたいです。また紙だけでなく、SNSなど時代に合った媒体も活用し、発信力を高めていきたいらと思ひます」
奥村さんは、これからも地域の魅力を取材し、金谷を盛り上げていきます。



月に一回の広報委員会で、誌面の反省や次号の企画について話し合っています。

Shimadajin File #84

Story 島田人